

【災害危険度判定の概要】

大規模な地震が発生した場合、建物の倒壊、火災の発生や避難道路の遮断など、様々な被害が発生する恐れがあり、これらの被害の内容は、都市の持つ地理的条件などによって異なります。  
 このため、どの地域でどの様な被害に対する危険性が高いかを予め把握しておくことは、安心なまちづくりを行う上で重要です。  
 そこで、南あわじ市では、平成20年度に市全域を対象として地震に対する災害危険度判定調査を行いました。

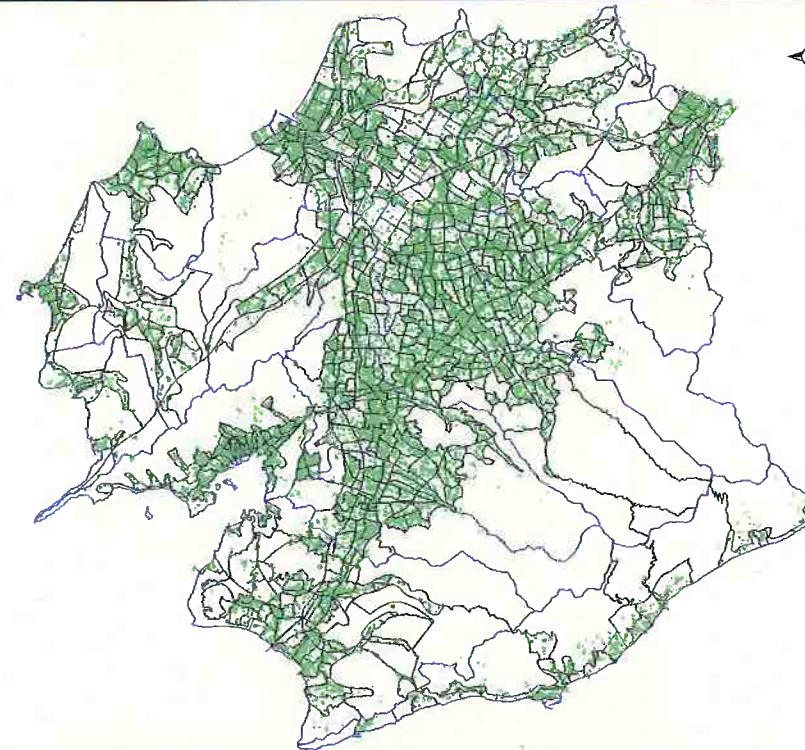
【災害危険度判定とは】

南あわじ市の課題を明らかにし、防災まちづくりを進めるために行った調査のことです。  
 ある地域が南あわじ市全体の中でどのくらい危険性が高いか比較評価したものであり、地震災害の被害の規模を予測したものではありません。  
 災害危険度は、国のガイドラインに基づき、南あわじ市の地震災害に対する危険性の度合いを評価しています。

【地域概要】

人口関係	総人口	65歳以上	男	女	人口密度(人/ha)
人口(人) 構成比	52,283 (100%)	14,058 (27%)	25,008 (48%)	27,275 (52%)	2.28
災害時要援護者関係	総世帯数[a]		要援護者世帯数[b]		b/a
世帯数(世帯)	17,044		1,746		10.24%
既存建物の状況(1)	建物(1)総数	木造建物	非木造建物	老朽木造建物	津波浸水家屋
建物棟数(棟) 構成比	56,056 (100%)	37,190 (66%)	18,866 (34%)	30,745 (55%)	3,712 (7%)
既存建物の耐震性(2)	建物(2)総数	昭和55年以前築		昭和56年以降築	
建物棟数(棟) 構成比	38,795 (100%)	25,614 (66%)		13,181 (34%)	
消防関係	消火栓	防火水槽	その他水利	消防署	消防団詰所等
箇所数(箇所)	1,699	122	28	2	99
避難所関係(地震時)	広域避難所		拠点避難所		
箇所数(箇所)	13		25		

※出典 ・人口、総世帯数：平成17年国勢調査  
 ・災害時要援護者世帯数：南あわじ市防災課  
 ・建物(1)：災害危険度判定調査の使用データ  
 ・老朽木造建物：昭和46年以前築の木造建築物  
 ・津波浸水家屋：南あわじ市津波ハザードマップより計測  
 ・建物(2)：家屋課税データ[属性データ有](H19.1.1.時点)  
 ・消防、避難所関係：南あわじ市地域防災計画(平成18年度)



■：住宅密集地  
 建築物の立地状況からを表示

図 住宅の密集状況

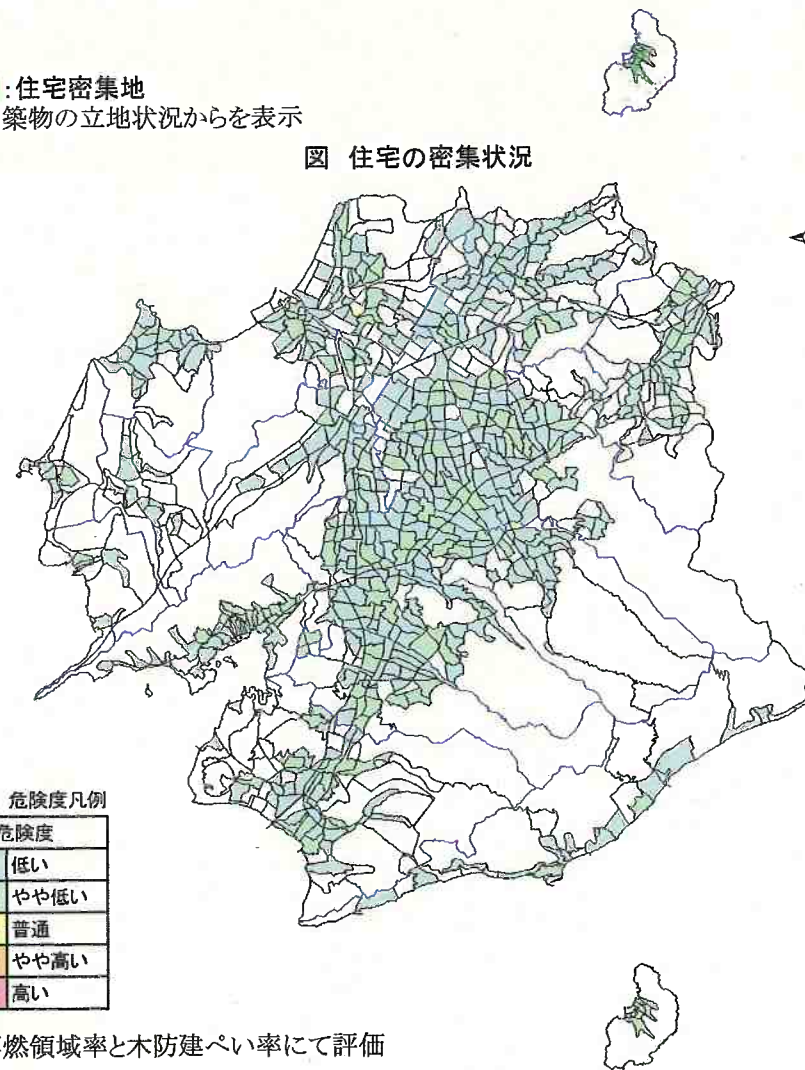


表 危険度凡例  
 危険度  
 1 低い  
 2 やや低い  
 3 普通  
 4 やや高い  
 5 高い

不燃領域率と木防建ぺい率にて評価

図 地区内の燃え易さ



図 旧村範囲(22地区)

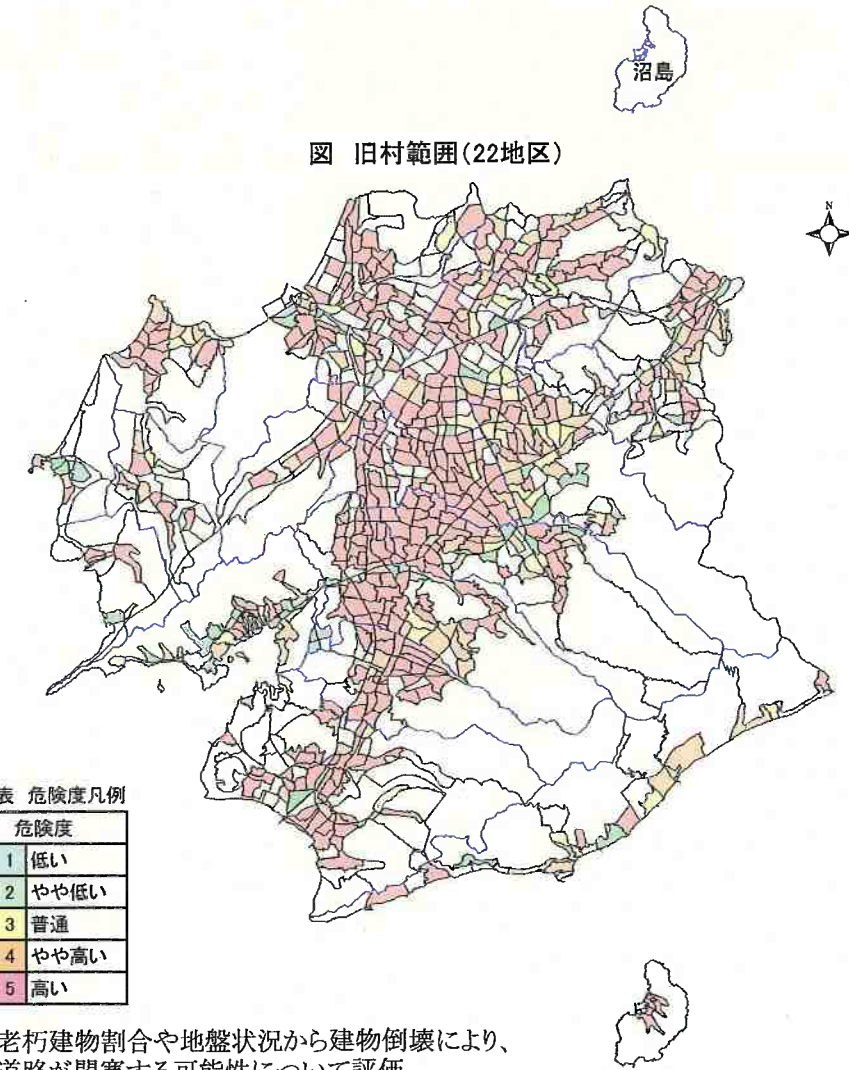


表 危険度凡例  
 危険度  
 1 低い  
 2 やや低い  
 3 普通  
 4 やや高い  
 5 高い

老朽建物割合や地盤状況から建物倒壊により、道路が閉塞する可能性について評価

図 道路閉塞の可能性